

## 令和4年度 第1回石狩市厚田区地域協議会 会議録

【日 時】 令和4年4月27日(水) 18:00~19:30

【場 所】 厚田総合センター2階 ホール

【出席者】 12人(15人中)

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	渡邊 教円	○	委員	加藤 亞弓	○	委員	角野 亮太	
副会長	東 幸子	○	委員	鎌田 憲一	○	委員	平賀 敏和	○
委員	石田 靖子	○	委員	小山 玲子	○	委員	村本 龍一	○
委員	大内 さつき	○	委員	今 光江		委員	森田 瞳	○
委員	岡山 拓	○	委員	笹谷 清一	○	委員	八木沼 英晃	

※会長・副会長を除き、あいうえお順

企画経済部企画課 ～ 宇野課長、幸田主査

厚田支所 ～ 東支所長、吉田市民福祉課長(併 厚田生涯学習課長)

地域おこし協力隊 ～ 奥本隊員

集落支援員 ～ 八木沼支援員

事務局(地域振興課) ～ 高田課長、永塚主幹、寺尾主査、渡部主査

【傍聴者】 3名

【次第】 1. 開会

2. 委嘱状交付並びに委員紹介

3. 会長挨拶

4. 令和4年度人事異動に伴う組織紹介

5. 情報交換会(リラックスタイム)

6. 協議事項

(1) 第9期厚田区地域協議会の運営について(継続協議6回目)

「移住定住の促進に向けた情報発信について」

7. 報告事項

(1) 令和4年度予算厚田区関連事業について

(2) 厚田区地域おこし協力隊の募集結果について

(3) その他

8. その他

9. 閉会

## 1. 開会

開会前に事務局（高田地域振興課長）より、今委員、角野委員、八木沼委員の3名の欠席報告と、併せて渡邊会長より本日の協議会へ厚田区地域おこし協力隊員及び厚田区集落支援員の参加を求め参加していること報告し、令和4年度第1回厚田区地域協議会を開会した。

## 2. 委嘱状交付及び委員紹介

事務局（高田地域振興課長）より、識見を有する者（2号委員）で委嘱していた厚田学園の校長である丸山委員が、4月の教職員人事に伴い転勤することになり、新たに厚田学園の校長に着任した岡山拓氏を選任したことを報告し、委嘱状を交付（机上交付）後、岡山委員より挨拶をいただいた。

## 3. 会長挨拶

渡邊会長より、本日参加いただいたお礼と、委員の皆さまより協議事項である移住定住への意見を聞く場があるのでご協力をお願いした。

## 4. 令和4年度人事異動に伴う組織紹介

東支所長より、資料1 厚田支所機構図により説明し、地域振興課管理担当の森田と地域調整担当の渡部、新たに導入した集落支援員に八木沼、教育委員会厚田生涯学習部に石井、保健福祉部厚田保育園に今川が配属されたことを報告し、本庁企画課の異動もあり、本日出席している宇野課長と幸田主査が自己紹介をした。

## 5. 情報交換会（リラックスタイム）

東副会長から、先週初巻きし1週間後の育苗ハウス内の生育状況について、笹谷委員から、道の駅のテナント「HOME」で4月より新たにソフトクリームの提供を始めたことについて、事務局（渡部）より厚田橋の横に出来たスケードボード場（RAD BEACH）についての情報提供を行った。

## 6. 協議事項

### (1) 第9期厚田区地域協議会の運営について（継続協議6回目）

「移住定住の促進に向けた情報発信について」

前段、事務局（渡部）より、資料2の第12回厚田区地域協議会の「委員意見まとめ」について説明後、協議を行った。

### 【 渡邊会長 】

只今事務局より前回出された意見について説明がありましたが、メリット・デメリットもありますが、欲しい情報については、仕事や住宅などの意見もありました。まずはお試しで1か月とは言わなくても、何週間か住んでもらうということもいいのではと思っております。あと移住定住者への支援も当然必要になってくるのではと思っております。この他に何か前回の意見を振返ってご意見とかありますでしょうか。

ご意見が無ければ、前回ですが笹谷委員からその地域に目的として、定年後にのんびりとしたスローライフの方、また、自然の中で子どもを育てたいという少し若い世代のニーズ、それぞれやっぱり移住定住を決めるといふ部分では、目的が違うのかなというところを改めて思っているところです。また、東副会長も婚活に参加して望来の景色が結婚の決め手の一つになったと話がありました。それぞれに理由があり、移住定住に繋がっているのではと思ってます。東副会長の話ではないですが、婚活みたいなきっかけとなるイベントというのにも必要になるのではと改めて考えております。飯塚隊員が話されていましたが、移住定住となるとハードルが上がるので、緩やかに厚田に関わっていく中で、厚田の魅力というか住みやすさとかそういうことを感じていただくという部分もあると思います。

開催案内に書かれていましたが、私はこんな人に厚田に来て欲しいと思う年代やその理由について、ここで皆様に伺いたいと思いますので、よろしく申し上げます。それでは東副会長からお願いします。

#### 【東副会長】

私はやっぱり子育て世代に来ていただくといいのではと思っています。せっかく小中一貫のすてきな厚田学園があるので。子育て世代が来てくれると子どもが増えるし、厚田を好きな人がいっぱい増えて、育ってまた戻って来て、カムバックサーモンみたいな感じになるといいのではと思っています。

#### 【平賀委員】

いろいろ考えたのですが難しいですね。身近なところで考えると、例えば厚田に仕事を札幌から通っている知り合いがいますが、そういう人たちに住んでいただければいいのではと思っています。札幌から時間を掛けて来ることもないと思うのですが。そういう話を知り合いの方にしたら、最初は市営住宅に住みたかったみたいですが、中々入れず、空き家も探していたが、大きい家は私も知っているのですが、そこを一人で住むのもちょっと大変で、冬の除雪の問題もあり、しょうがなく札幌から通っていると。出来ればこちらに住みたいと思っている方がいるのですから、そういう人たちに住んで貰えればいいのではと思っています。住んで奥さんを貰って、子ども出来て、厚田学園に通ってもらって、私はそういう感じになればと思っています。

#### 【笹谷委員】

年代が難しいなと思っています。一つ気になっているのがお試し移住ですが、冬を味わったら引くと思うので、中々難しいと思っています。夏のいい時期にお試し住宅をさせて、住むことになって冬にびっくりするみたいなことが、実際に私の近所の方で、一冬体験して花川に引っ越す方もいましたので。お試し住宅は、少し慎重にやった方がいいのではと思っています。

私がこんな人に来て欲しい部分は、私の仕事柄ですが、春夏秋冬は本当に忙しいです。本業の方もそうですが、道の駅のソフトクリームの方もそうです。春夏秋冬はとにかく忙しくて、冬は吹雪と戦っている状況です。冬だけ忙しい人たちとシェア出来るような、春夏秋冬は厚田に住んで、冬はそっちに協力するみたいな、何かそういう形がとれてお互いに良くなるような関係性が出来る人たちが見つければいいのではとすごく感じています。

#### 【加藤委員】

私も子育て世代にいっぱい来て欲しいです。そして、厚田学園にいっぱい来て子どもが増えて欲しいなと思います。今年の入学生が6名で、厚田学園の規模にするとすごく賑やかですが、やっぱり子どもがいっぱいいるといいなと思うので、小規模は小規模の良さがあるのですが、その中でも多いのは良いなと思います。

でも、子育て世代に限らなくても、厚田区のいわゆるデメリットがデメリットにならない人たちが来てくれたらいいのではと思っています。交通の便が悪いこととか、吹雪はどうしようも出来ないことと思うので、除雪が苦にならないとか、車の運転ができるとか、或いは頼れるご親族の方が近くにいる方に来ていただくと、住んでからこんなはずじゃなかったということも、少ないのではないのかなと思いました。

#### 【村本委員】

自分と同年代近くで、30代から40代で働き盛りの人たちに来て欲しいと思います。自分の職場もそうですが、人手不足でかつかつ状態というのもあり、今の人からしたらきつい仕事なのかなと思うところもあるので、我慢強い人、冬も除雪も苦にせず、すぐ慣れてくれる元気な人たちがたくさん来て欲しいです。

### 【奥本委員】

私は去年から住み始めたのですが、ちょっとしたお小遣い稼ぎで、ちょこちょこ働けるところがあればいいなと思っています。冬の除雪はありましたが、意外と除雪機を使って投げると、自分は別荘地なので投げるところに困らないので、そんなに苦では無かったなと思っています。リタイヤ世代は、一つのターゲットになりやすいところなのかなと思います。

一方で子育ての世代の人に来て欲しいと思ってもいますが、たぶん、奥さんが子どもの教育に小さい頃はこっちの方がいいと感じてくれると、旦那に我慢して通勤しなさいと、きっとこちらに来るのかなと思います。ただそうなった時に高校が無いので、子どもが高校の時に通学で大変になったら、きっと奥さんは花川とかそっちの方に引っ張られるような気がしますので、高校をどうやって乗り越えるのかということが一つの課題なのではと思いました。

先ほどお話しした住宅の話がありましたが、各自治体でどのような事をやっているのか調べています。冬が厳しいからなのかわかりませんが、冬は辞めている自治体もありました。夏はやりませんが、冬期間はしませんという自治体もありますので、実際にやる時にはいろいろとやり方も含め検討する必要があるのかなと思いました。

### 【八木沼支援員】

どんな年代の方に移住して来て欲しいかということですが、私の個人的に思っているのは、先ほど奥本隊員から話がありましたが、リタイヤ世代で早期退職している50代・60代でまだ動けるけど、ゆっくりとゆるく田舎で暮らしたいとか、仕事を頑張ってきたので早めにリタイヤして、ゆるく生活をしたい方にぜひ来ていただきたいなと思っています。もう1点は子育て世代です。せっかく厚田学園があるので、私も厚田学園CSに関わらせていただいていますし、息子も二人通っていますので、いくら小規模校とはいえ、もう少し生徒数が欲しいかなと感じています。ただ学校に来るとしたら大きなことだと思っています。例えば厚田学園は小中一貫校なので、1年生から9年生の9年間だけでもいいから厚田に来て、厚田学園で子どもを育てませんかというようなアピールをすることと、実際に来た時にどこまで地域がそれをフォローしてあげられるかという体制作りも必要になってくるのかなと思っています。狙い目はお子さんがいる世代とリタイヤ世代で、あわよくばリタイヤ世代の方には、手伝ってもらって側にも入っていただけたらいいなと思っています。結構課題とか、田舎の不便さの手伝いには、マンパワーが必要な部分を感じていますので、大きくはその二つの世代が狙い目で、そこをもっとより活かせればと個人的に考えています。

### 【石田委員】

私は自然の中で暮らすのが好きな方。厚田は大変なところもありますが、そういったところも全部受け入れて興味を持ってくれる方に来ていただきたいと思っています。若い子育て世代もたくさん来ていただきたいと思っています。厚田学園を見学し凄く良かったので、私の子供がいるのであれば通わせたい学校だと思っていますので、是非とも、広めていただきたいなと思います。

### 【大内委員】

私は、年代については何歳でもいいのかなと思います。田舎暮らしを苦にしないで生活できる人なら住めるのかなと思います。何か手に職をもって、パン屋とかスイーツとか、夏だけでもやって生活できればいいのかなと。何をやるにしても、子育て世代が来るにしても、支援というのが一番必要なのかなと思います。

### 【森田委員】

来てくれるのだったら誰でもウエルカムという感じですが、私も子育て世代の方に来ていただけたら、子どもの数が増えて、厚田学園に子どもが増えればうれしいなと思っていますが、家族で厚田に来ますとなった時に、どういう人が来られるのかなと考えたら、例えばお父さんがバリバリ仕事をされていて、その人がバシッと仕事を辞めて厚田に

来るというのは中々難しいのかなと思うので、デザイナーとか、ノマドの方とか、インターネット一本で稼ぐような家族とか、厚田を気に入ってくれば来てくれるのかなと思いました。そういう会社勤めの方が、ポンとここに移住しようとは中々ならないと思うので、そういうような方々に向けたPRが必要なのかなと思います。

### 【鎌田委員】

今日のテーマ自体が、もの凄く贅沢なテーマだと思っています。厚田に来て欲しい年代とその理由と書いているのですが、人を選び好み出来るような状況では無いと私は思っています。前回ちょっと話をさせていただいた家具や電気製品を完備したお試し出来る住宅があれば、今農業の方でも人がいなくて、極端な話ですが離農したりする人が出てくる中で、後で説明があると思うのですが、第一次産業の振興ということで、就農への支援として市が施策として予算を付けているので、こういったせっかくの施策を利用して、厚田に来てくれる人を迎え入れる形で、気軽にお試しが出来る住宅が欲しいなと思っています。

### 【小山委員】

いろいろと考えてきたのですが、今厚田で何が必要なのかなと思いました。一つ目ですが、前の会議の中で、鎌田委員が歯医者という話がありました。歯医者はどうなのかなと思ったのですが、過去には何軒か歯医者がありました。ずっと住んでいただくのではなく、週に何回とか、それが無理であれば、医療大学とか移動の歯医者など、お年寄りはやっぱり札幌や花川へ通わなくて歯の治療を地元で受けられることが、いいのではと思いました。それにはまずは、市内に小児科が一軒しかなくて、助成を用意してどうですかという話もありましたが、そういう助成金を用意しなければとても実現は無理なのかなと思っています。

二つ目ですが、農家や漁師の人手が足りず困っているということで、季節的に今の稲播きシーズンに手伝いできる方、漁師は冬のニシンは大変なのですが、通年お手伝いできるのがいいのでしょうか、魚を外す人とか朝市で売り子をしてくれる人とか、季節的にお手伝い出来る人が来ればいいなと思っています。

あと、角野委員が前に言われた同業者のお友達が来てくれればいいなというお話がありましたが、森田委員がやられております養蜂の方もそうですよね。お友達がいればいいのではと思います。

特産品の関係で、盛重牧場の牛乳を使ったチーズ工房。チーズに興味ある人が地元の牛乳を使った乳製品の特選品も一つあってもいいのかなと思います。

それでまずお試しになるかと思いますが、お父さんとかお母さんが先に生活してみて、徐々に厚田の良さを分かってもらって、厚田に住んでもらう、もちろん体力のある方だといけないと思いますけども、そういうことで少しずつお手伝いをしながら、厚田を好きになってくれる人が来てくれればいいなと思っています。

### 【岡山委員】

10日程前に私の歯が取れまして、どこに行こうかと思ってインターネットを調べてみたら、厚田に歯医者があるって出てきました。カントリーキッチン・アンさんの通りにあったのでしょうか、その写真が載っていました。これはすぐ通えると思って行ったら無かったのですが。結局は花川の歯医者へ通いました。2回で歯を入れていただきましたが、やっぱり歯のこととなると凄く切実なものを感じた次第です。

私のところは教育の場ですので、教育の力って何かと日頃考えています。結局、まちづくりはひとづくり、ひとづくりはまちづくりと良く言われますけど、これは私がどこの市町村に異動してもその話を伺います。結局その街を愛する気持ちというか、どういう視点で厚田を見るようにその仕掛けをしていくか、これが教育の力だと思っています。時には、1回外に出てそしてもう一度見直すということも、とっても重要だと思っています。そこから中側から深く掘り下げていくこともとっても重要です。小学校の教育課程には、街を知るカリキュラムが小学校3年生で、街をステージにするカリキュラムがあります。それから総合的な学習という結構な時間をやるのですが、街を調べたり、それから

いろんな業種を調べたりとか、人の住み方とかその部分を調べたり、どんどん掘り下げて行く。なぜそういったところに着目して学校でやって行くかということなのですが、たぶん多くの市町村でそれをやってきているのですが、その強度は違うと思いますが。でも失敗例もあるかもしれませんが、成功例もあるということだと思います。たまたまそういった観点でお世話になったところがあって、それが道東の浦幌町ですが、浦幌町は元々高校がありました、廃校になりました。子どもたちはどんどん外に出て行きます。そしてもう戻って来ません。どんどん人口が減って、とっても厳しい状態になりました。そこで教育に力を入れて浦幌をもっと掘り下げて勉強する、いわゆる浦幌スタイルと呼んでいたそうです。それが十数年前から力を入れて、今若い人たちが戻って来ているというところを聞きました。それでこれは凄く勉強になると思って、お付き合いが始まり、ちょっと勉強をさせていただきました。浦幌は農林水産業のある町です。それぞれのスペシャリストがいて、その中で技術を持った人たちが跡継ぎを見つけられないでいました。それが今、だんだん跡継ぎができ、例えば林業は技術的にも、お金も掛かることだと思いますが、ハーベストとか凄い機械が入っています。そういった機械を導入するにはお金が掛かるのですが、なんかそこで上手く若い世代と繋がったといういわゆる成功例を耳にしたことがあります。ですからやっぱり、子どもの心にスッと入っていけるようなそんな教育を厚田に、厚田を愛するような教育を進めて行くことが大事だなと。令和4年度厚田学園の経営方針の柱は3つあるのですが、その一つが厚田愛、厚田学となっています。教育の現場としては、ここをとにかくしっかりとやって行くこのことに尽きるのかなと思っています。

すいません、課題と全然違う話をしたのですが、ちょっと情報提供も含めて話をさせていただきました。

#### 【 渡邊会長 】 閉栓

皆さまありがとうございます。いろんな意見が出ました。本当に鎌田委員の言うとおりに選べるような状況じゃないのにはグサツとききましたけれど、とにかく若い世代、子育て世代とリタイヤしているスローライフのそういう世代へ、我々がこれから作ろうとしている情報発信する中身が、若干変わってくるのかなということで、今回このようなテーマにさせていただきました。

若い世代へは、先ほど先生たちが言われていましたが、厚田学園をいかにPRしていくかということもポイントになるのではと思いますし、仕事や空き家、住む場所。定年の退職者については、空き家とか、年齢にもよりますが、交通の便とかちょっと仕事が出来るとか、そういう情報が必要なのかなと思います。そういうことをもう少し詰めて行くと、移住定住に向けたホームページが、出来てくるのではないのかなと思っています。

私が浜益の老人施設にいた時に職員を採用したのですが、ご主人はここに住みますと言っていたのですが、何日かしたらお断りの連絡が来て、妻がここには住めませんと言われ、奥さんの力も相当あるのではとその時痛感しましたが、浜益の住宅というのが、使っていない築50年ぐらい経っている教員住宅みたいなところをあっせんされ、セイコマートしか無く、やっぱり田舎でも住みたいというお二人でなければ、中々難しいですよ。そこら辺をどう上手に厚田学園を含めてPRしていければいいのかなという気がしています。

#### 【 東副会長 】

お試し移住となるとハードルが高いと思うので、まずやっぱり厚田に来ていただいて楽しんでもらう、厚田のいいイメージを持ってもらう、夏のいい時期に1日だけ。今年も厚田でお祭りが開催できるかわからないのですが、子育て世代でもリタイヤ世代でもどちらでも、まずは厚田に来て楽しんでもらって関係人口を増やして、如いては厚田に住みたい、厚田が候補地に繋がっていくのかなと思いました。外から厚田に来てくれる方が増えていくような取り組みから始めるのは、どうなのかなと思います。

#### 【 渡邊会長 】

そこも大事なところですよ。厚田を知ってもらうとか、まずは来て見てもらうということをどういう形ですの

か、スケードボード場みたいに、子どもたちが来ると当然親も来るので、そこだけで終わらずに、例えば道の駅でイベントをやっているので行ってみてはどうだろうかという情報発信なのか、子どもには当然親が付いてきますので、そこら辺も厚田はいいところだとすれば、またちょっと違う部分も出てくるのかなと思いますので、イベントについては、ここ2年ぐらいはコロナでほとんど何も出来ませんでした。もし可能であれば、今こんなにコロナの感染者が増えていても、野球の観戦が出来たり、コンサートが出来たりしていますので、きちんと対策さえすれば出来なくなるのかなという気もするので、東副会長が言われたように、関係人口をいかに増やしていくか、そして厚田の人たちといかに交流していただくか、例えば、興味がある人は厚田学園を見てもらう、そういう何か仕掛けがあればいいのかなと思いますので、この辺はもう少し詰めて行かなければいけないのかなと思います。

厚田のいい時期ってもうすぐですよ。冬場はあまりとの声が先ほどありましたけど、慣れればこんなものかと思うのですが。うちの娘も厚田から新港のコストコに仕事で通っているのですが、距離はもともとこんなものだと思っているからか、あまり遠く感じてないみたいで。だけど札幌から来た人たちからすると、新港まで通うとなると、きついという感覚になるのでしょうか。だから、そこら辺も何回か来ているうちに距離感も縮まってくると思います。

私が以前勤めていた老人ホームの話ですが、夏場に入所されて、ご家族の方がお母さんはいいところに入りましたと言っていました。冬に来たら死ぬかと思いましたが言われました。ほかの方は望来ぐらいまで来て、どこまで行ったらいいのでしょうか。段々不安になってくるみたいで、やっぱり何回か厚田に来ているうちに慣れてきて、凄くいいところですねってなってくると思うので、もう少しそこら辺の上手い情報発信をしていければいいのかなと思います。

先ほどの奥本さんのお試し住宅の話で、冬場はやっていないとの事でしたが、それはどこの地域でしたか。

#### 【奥本隊員】

道北の方とか、道東だったと思います。

#### 【渡邊会長】

笹谷さんも話されていましたが、冬に来たらかえってマイナスイメージになるのではないかと話されていましたが、そこら辺もニーズがある時に、応えられればというのもありますよね。

#### 【奥本隊員】

やっている自治体の数だけ見ると、道内で半分の100自治体ぐらいがお試し住宅をやられていますので、各自治体は移住定住に力をいれているなと感じています。

#### 【渡邊会長】

支所長いいですか。例えばこういう住宅を市町村で始めようとした時に、市で住宅を持つということになるのですか。それとも三セクなどですか。

#### 【東支所長】

手元に資料がございませんので、中々直ぐにお答え出来ませんが、市や町で借上げてそれを貸し出すという手法もあると思いますし、公社だとか、民間にその事業をお願いしているパターンなどいろいろあると思います。こないだ新聞に掲載されていましたが、東京の企業と連携して、家そのものを建ててもらって経営も任せて、非常にコンセプトをしっかりと町と詰めて出来るだけそのニーズに合うような形で進めているところもありました。

先ほど100自治体ぐらいと聞きましたが、そういう意味では相当、競争相手と言ったらあれですけど、あるなと気がします。ただこの部分についてはしっかりと調べて、どういった部分で我々が出来るかということ、検討が出来

るような状況に持っていければと思っています。

【 渡邊会長 】

この辺はどういう方法があるのかなど、考えていただければと思いますのでお願いします。まずは何にせよ、移住定住に向けたHPを作ろうということが今回の目指すところでありますので、それにあたって皆さんも、インターネットで、いろんな地域のHPの中で、これはわかりやすいとか、これはいいなというようなHPがあれば、事務局の方に連絡していただければと思います。どこの町のHPは良かったとか、そういう情報をお願いします。

【 小山委員 】

テレビで見たのですが、音威子府のHPでトリセツとして細かな情報が出されていると紹介されていました。

【 渡邊会長 】

小山委員から只今情報がありましたが、他に委員の皆さまからありますでしょうか。そういう情報を事務局までお願いします。出来れば5月18日ぐらいまでに、事務局までに電話でもメールでも構いませんのでお願いします。

イベントの関係ですが、地域の若者と交流するという関係人口作りは必要だと思いますので、イベントについても今後検討をしていきたいなと思いますので、次回の協議会でその辺の話もさせていただきたいなと思います。

その他皆さんの方から何かありますでしょうか。

【 鎌田委員 】

前回の協議会で田舎暮らしなどのスペシャリストに講演をいただいたらどうかと話をさせていただいたのですが、事務局の方で検討していただいたのかその辺を教えてください。

【 東支所長 】

私からお答えをさせていただきます。率直に申し上げてまだ具体の検討に至っておりません。テーマもありますので、どういった講師についても内部でもう一度十分検討したいと思っています。趣旨としては、我々も含めて委員の皆さんが様々な移住定住も含めた方策について学びを深めることは、大変重要なことだと思いますし、その中でいろんな気付きがあって、地域で活かせるということも出てくると思いますので、HPについても進めていますけど、それに加えて、そういったこともどのように出来るか慎重に考えて行きたいと思っています。今一度お時間を頂きまして、ご相談もさせていただきたいと思っています。

【 鎌田委員 】

特にぜひ、お願いしますという話ではないのですが、前回話を出した以上何らかの話があるのかなと思っていましたので、基金を使ってまで話をさせていただいたので、確認をさせていただきました。

【 渡邊会長 】

今後そのような部分で良い方がいれば、検討することはやぶさかではありませんので検討していきたいと思っています。それではその他無ければ、本日の協議事項については終了させていただきます。

## 7. 報告事項

### (1) 令和4年度予算 厚田区関連事業について

渡部（事務局）より、資料3 令和4年度予算 厚田区関連事業について説明。



寺尾（事務局）より、活動最終年度なる飯塚隊員が、個人事業主としてデザイン事務所の開設する費用として、厚田区地域おこし協力隊企業支援補助金を活用することを説明。

集落支援員の八木沼より自己紹介と活動内容について説明後、厚田区集落支援員制度検討委員会の笹谷委員長より、集落支援員の導入をもって本検討委員会の役目を終えることを報告し、東支所長より集落支援員を核に支えあいのまちづくり「厚田カンパニー構造」の具現化を目指すことと、協議会へ集落支援員の活動状況の報告や意見交換をさせていただくことを補足説明。

(2) 厚田区地域おこし協力隊の募集結果について

寺尾（事務局）より、1名募集していた令和4年度採用協力隊について、道外から2名の応募があったが、採用には至らなかったことを報告し、再募集に当たっては着任後のミスマッチを防ぐため、おためし協力隊プログラムを活用しながら随時の募集とすることなど、併せて報告。

(3) その他

特になし

8. その他

全体を通して他に委員から質問等無く、次回の日程を5月26日（木）18時から厚田総合センターで開催することで了承。

9. 閉会

19時30分に閉会。

○次回の日程について

令和4年5月26日（木）18時00分～ 厚田総合センター2階 ホール

令和4年6月3日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会長 渡辺 教円